Innovator in Electronics

muRata

村田製作所

Murata Report 2012

Corporate Report

CSR Report

VEGETABLE OIL INK

このパンフレットは環境に配慮し、植物油インキを使用しています。

muRata

Innovator in Electronics

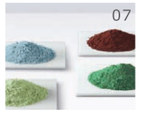
Innovator in Electronics®

ムラタが作っている電子部品のことを、
多くの人は知りません。けれども、ほとんどの人は
ムラタの電子部品を使っています。
パソコン、携帯電話、家電製品、カーエレクトロニクス…。
より小さく、より高機能に、
日々めざましく進化を続ける電子機器の中で、
ムラタの電子部品は活躍しています。

Innovator in Electronics®

電子部品は、変わり続けています。
ムラタもまた、変わり続けたいと思います。
時代の動きを受け止め、
まっすぐにお客様を見つめ、
現場でのものづくりに誇りを持ち、
たえず新しい課題にチャレンジする、
エネルギーに満ちた
改革者（Innovator）であり続けたいと思います。
変わらない信念を持って、大胆に変わっていく。
ムラタはどんな時代にも
イノベーターであり続けます。

Index



Corporate Report

01 Innovator in Electronics®
02 Index
03 トップメッセージ
05 バリューネットワーク
07 コア・コンピタンス
09 アプリケーション別製品紹介
15 財務ハイライト
17 グローバルネットワーク

CSR Report

19 CSRコミットメント
21 新規事業とCSR
23 環境特集
25 環境保全推進
27 従業員への責任と行動
28 社会・地域への責任と行動
29 CSR活動における目標と実績
31 第三者からのご意見

Profile

32 国内外拠点一覧
33 役員一覧
株式の状況
大株主の状況

※本誌では村田製作所グループ全体をムラタと表記しています。

Murata's Corporate Grand Design

ムラタの“ありたい姿”を示した コーポレートグランドデザイン

ムラタは創業以来、社是に込められた想いを企業運営の礎とし、エレクトロニクス社会の進展とともに大きく成長してきました。これからもエレクトロニクスは、その可能性を広げさらに発展するものと期待されます。市場がますます激しく変化する中で、これからも継続して社会の発展に貢献できる企業であるために、ムラタはどうあるべきか、何をなすべきかを示した「コーポレートグランドデザイン」を策定しました。

今後、市場のグローバル化がさらに進展し、お客様のニーズが多様化していきます。その中で、世界最高水準の顧客価値を提供し続けていくために、世界に広がるムラタグループ各拠点や世界のさまざまなパートナーと協同して、強固な顧客価値創造のバリューネットワークを構築していかなければなりません。

ムラタで働く従業員一人ひとりが常にお客様にとっての価値が何かを考え、自らの仕事がどのように価値提供につながっているかを考えることが重要です。

10年後の“ありたい姿”を従業員全員で共有し、新しい価値を提供する、新しいムラタを実現するために、今、力強い一歩を踏み出します。

代表取締役社長 村田恒夫

社 是

技術を練磨し
科学的管理を実践し
独自の製品を供給して
　文化の発展に貢献し
信用の蓄積につとめ
会社の発展と
　協力者の共栄をはかり
これをよろこび
　感謝する人びとと
　　ともに運営する

Innovator in Electronics	CS（価値の創造と提供）と ES（やりがいと成長）
顧客本位	現場重視
変化への対応	チャレンジ精神

All for Customer

お客様への想いで、私たちはつながっています。

グローバルな展開を強化していく中で、従業員全員が自在につながりながら、
お客様に喜んでいただける価値を創造すること。
それがバリューネットワークの思想です。
このバリューネットワークの力で世界の新しい未来に貢献します。

製品も、人も、情報も。世界中を自在に結ぶネットワーク。

たとえば、お客様の開発拠点はヨーロッパ、発注は購買拠点のシンガポール、納入先は中国の工場。そのお客様に対して、ムラタは各国の営業、生産工場、スタッフがグローバルに連携してご要望にお応えする。そんな状況が、今や一般的です。ムラタの売上高の約85%は海外の市場が占めており、それは「日本と外国」という「1対多」の関係ではなく、お客様とともにグローバルに展開する中で、双方の各拠点・機能が複雑に結びつく「多対多」の関係によって構築されているのです。グローバルなサプライチェーンを運用するためには、情報の一元化が必要です。ITシステムの開発についても、適材適所の考え方のもと、国や地域の枠を超えてシェアし、意見を調整する場としてグローバルIT会議を行っています。常に、必要なときに必要なポイントがつながる中で、自然とネットワークが形成されること。お互いを信頼し、任せ合う風土をつくること。自分の常識はローカルな常識と認識し、相手の立場で考えること。私たちが大切にしているのは、このような価値観です。

株式会社村田製作所
生販システム部
東 将司

株式会社村田製作所
情報システム統括部
Cholo Galvez Lunaria

お客様の評価を社内で共有し、幅と深みのある提案を。

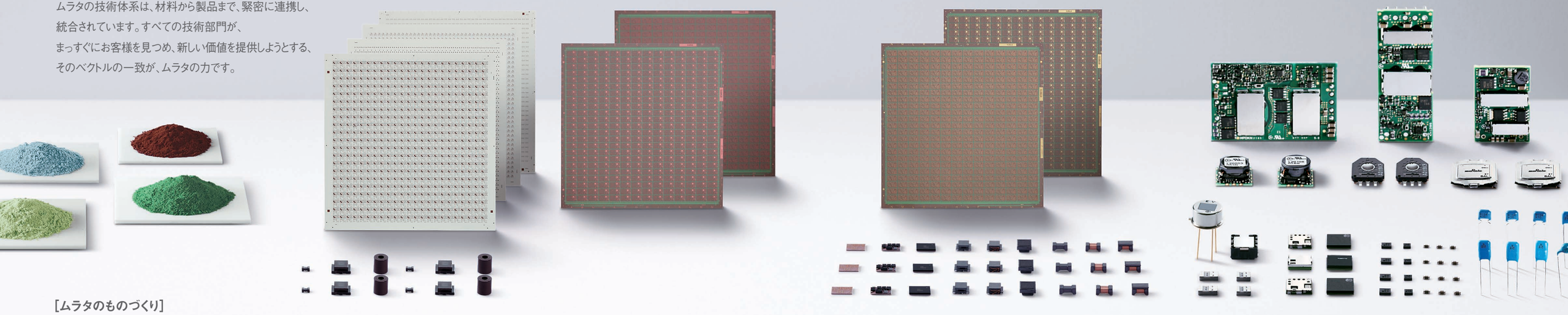
「マーケティング」という言葉にはいろいろな意味がありますが、私たちは「お客様にとっての価値を考える活動」と捉えています。センサ商品部では、FAE(Field Application Engineering)制を導入し、市場ごとの担当者がそれぞれの市場のスペシャリストになり、お客様に価値を提供できる環境づくりを行っています。市場がどう動いているのか、お客様の事業がどう展開していくのか、そのためにムラタができることは何か。技術交流会の場やお客様へのプレゼンテーションの機会を活かしています。重要なことは、部品のスペックを紹介するのではなく、ムラタのセンサでどういった機能を実現できるのか、その可能性をわかってもらい、ビジネス展開のビジョンを共有させていただくことです。提案にあたっては、機能の見える化を実現するためのデモ機を社内で製作したり、また、素子単体で解決できない課題はモジュール部門と一緒に、というように、社内の横のつながりの中で、お客様の評価を、プラス面もマイナス面も含めて共有し、提案の幅を広げていきたいと思っています。

株式会社村田製作所
センサ事業部
石岡 良友

Murata’s Core Competence

すべての技術がまっすぐに市場を、お客様を志向しています。

ムラタの技術体系は、材料から製品まで、緊密に連携し、
統合されています。すべての技術部門が、
まっすぐにお客様を見つめ、新しい価値を提供しようとする、
そのベクトルの一致が、ムラタの力です。



[ムラタのものづくり]

材料

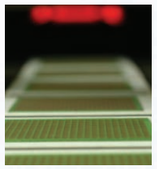
電子部品の特性に決定的な影響を与えるセラミック材料や電極材料を、高い精度で制御する技術を確立しています。

成形

厚さ1μm以下のセラミックシートから、射出成形による複雑な形状まで。“機能のための形”を追求しています。

焼成

セラミックスは、焼き固められることで結晶構造が変化し、性能を発揮します。炉の中の見えない挙動を制御する技術です。



加工

焼成までの工程を経て電気的な性能を獲得したセラミックスは、次にさまざまな加工を施されて、「電子部品」として完成されていきます。

完成

完成した製品は、厳しい検査を受け、その性能を保証されたものだけが、ムラタ製品としてお客様に届けられます。

[ムラタのコア技術] ムラタを支えるコア・コンピタンス

材料技術

10年先を見据えて、源流から新しく。

材料、部品、モジュールというエレクトロニクスにまつわるものづくりの技術を、自社内に垂直統合しているのがムラタの特徴であり、強味でもあります。セラミック材料や有機材料に関する技術はすべての工程の川上にあり、ここにどれほどのシーズを蓄えているかが未来を決めると思っています。10年先の世界を見据えたロードマップをつくり、さまざまな特性を持った材料の開発を進めています。

株式会社村田製作所
材料開発統括部
勝 勇人

積層技術

小型大容量化の先端を走る総合技術。

調製されたセラミック材料をきわめて薄いシートに成形し、電極を形成して何層にも積み重ねる工程が積層技術。ムラタは長年にわたって積層セラミックコンデンサを開発、生産する中で、この技術を徹底的に鍛え上げてきました。すべての工程の技術が高いレベルでバランスを保っていることが、ムラタのアドバンテージです。小型大容量化の要求が日増しに高まる中で、QCDをトータルで提供することができます。

株式会社村田製作所
生産技術開発統括部
田畑 和寛

生産技術

オリジナルな設備に蓄積される固有技術。

ムラタは基本的に生産設備を自社オリジナルで開発・製造しています。たとえば、私が担当している外観検査装置は、独自の画像処理アルゴリズムにより、製品の品質つくり込み・品質保証を実現しています。エレクトロニクスに新たな価値を創出し、提案するムラタの企業活動、その成果としての商品を生み出すには、製品コンセプトにマッチした生産ライン・設備が必要であり、また、そのことがムラタの競争力につながっています。

株式会社村田製作所
生産技術開発統括部
西木 亮

高周波技術

コミュニケーションの明日を支えるテクノロジー。

急速に進化するスマートフォンやタブレットPCなど、モバイル機器のイノベーションを支えているもの。それは、ムラタの高周波フィルタ、およびそれがパッケージされた通信モジュールです。小型で高機能な機器の中には、ムラタ独自のLTCC設計技術やシミュレーション技術でデザインされたモジュールが集積されています。時代の動きを先取りして、未来のニーズにマッチした新たな技術開発に取り組んでいます。

株式会社村田製作所
通信システム商品事業部
小野 農史

電子機器に「Innovation」を生み出す電子部品。

電子機器がますます小さくなったり。
どんどん新しいことができるようになったり。
機器の「中」から新しいことを始める、それが電子部品の仕事です。

小型化、高機能化、多機能化は、ただ機器を便利にするだけではありません。
それは、毎日の暮らしの中に新しい価値を生み出すもの。
コミュニケーションのあり方が変わり、仕事のスタイルが変わり、
ライフスタイルや楽しみ方が変わる、小さな電子部品の、大きなインパクト。
もしあなたの生活が去年と今年で変化していたら、きっとその変化のきっかけに、ムラタがいます。

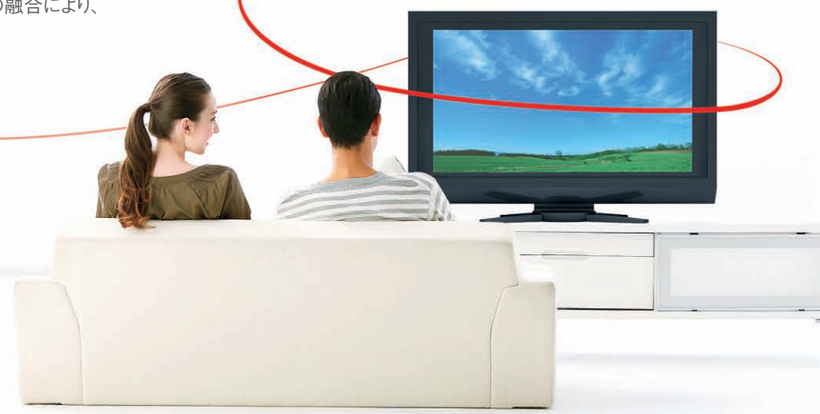
Audio and Visual

[AV]

テレビは能動的に使いこなす時代へ。

―テレビの中で、ムラタが「情報化」のお手伝い―

大画面化と高画質化に加え、
周辺機器とのリンク機能や通信サービスとの融合により、
テレビは見て楽しむだけではなく、
最も身近な情報端末に変わりつつあります。



AV機器の中にいるムラタの主要製品

電気二重層キャパシタ
モバイル機器用のバッテリーや、小型電源のピーク負荷軽減が可能。小型・薄型かつ低抵抗を特徴とし、バッテリーの延命や電源の小型化に貢献します。

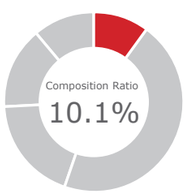
スイッチング電源
オリジナル回路を採用することで高効率、小型・薄型を実現し省電力、低発熱ユニットを提供しています。

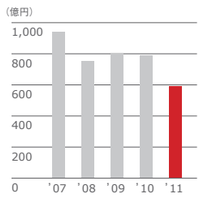
導電性高分子アルミ電解コンデンサ
低背/低ESRを特徴とした大容量コンデンサ。シビアな電圧制御が要求される回路の電源安定化を担い、AV機器の高機能化に貢献します。

薄型テレビをコアマーケットに。

新興国でも需要の伸びが著しい薄型テレビは、コンデンサなどのコンポーネント部品の需要を牽引しているほか、省エネ用の赤外線センサ、省エネ・小型化に貢献する電源モジュールなどのニーズを喚起しています。

■ AVの売上構成比と売上高





※当社推計値

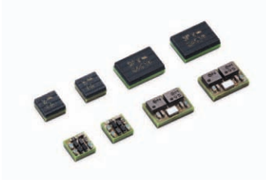
Communications
[通信]

あなたと、未来と、安心と、つながるケータイ。
──そこには、もっとつながりたいムラタがいます──

世界中の人々が手に取る携帯電話。
より高速で大容量な通信サービスも登場し、
多様化やスマート化が進む一方で、
機能を絞ったシンプルなモデルの需要も拡大しています。
高周波部品やセンサ、機能モジュールが、進化と普及に貢献しています。

携帯電話の中にいるムラタの主要製品

表面波フィルタ、表面波デュプレクサ
無線信号の中から必要な成分だけを取り出すフィルタやデュプレクサは、高周波回路のキーデバイス。ムラタは独自の小型化技術で、回路設計の自由度に貢献しています。



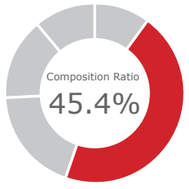
スイッチプレクサ®
ノイズを取り除くフィルタリング機能や送受信を切り替えるスイッチング機能を担う部品。多層モジュールの技術でコンパクトかつ高信頼性を実現しています。

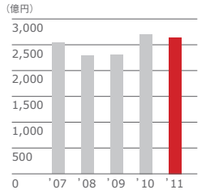
コネクティビティモジュール
無線LANによって携帯電話からインターネットにアクセスするためのデバイス。携帯電話の多機能化の流れをリードしています。

高機能携帯電話の普及が成長ドライバに。

ムラタの電子部品の需要として、最も大きな割合を占めるのが携帯電話です。携帯電話台数の伸びもさることながら、LTE端末やスマートフォンといった高機能機種の普及が進み、コンデンサや表面波フィルタなど携帯電話1台あたりの部品搭載点数が格段に増えており、今後も大きな成長が期待できます。

■ 通信の売上構成比と売上高





※当社推計値

Computers
[コンピュータ]

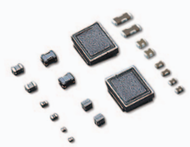
いつでも、どこでも、コンピューティング。
──「簡単」を実現する、簡単じゃない技術をムラタから──

インターネットやクラウドサービスの普及で、簡単に持ち運べて簡単につながる、
モビリティの高いPCが注目を集めています。
電子部品の小型化、高周波化、バッテリーにやさしい低損失化、
そして信頼性と、快適な操作性を実現するセンサなどで、
新時代のコンピューティングをサポートしています。

コンピュータの中にいるムラタの主要製品

ショックセンサ
衝撃や振動からハードディスクを守る役割だけでなく、触る、振るなどの簡単な動きで操作できるマウス不要のコンピューティングを実現します。

積層セラミックコンデンサ、低ESLコンデンサ
MPUに供給する電力を安定化させる小型大容量コンデンサ。モバイルPCの小型、薄型化に貢献します。

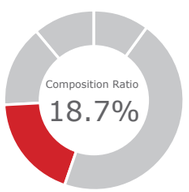


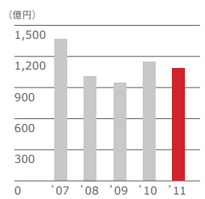
チップフェライトビーズ、チップエミフィル®
PCの多機能化によって、PC内のノイズ環境はさらに厳しくなっています。ムラタ伝統のノイズ対策部品がさまざまなノイズの問題を解決します。

モバイルコンピューティングが新たな成長段階に。

パーソナルコンピュータのCPUの高速化にともない、コンデンサやノイズ対策部品の需要が拡大しています。また、ハードディスクドライブの衝撃検知用のショックセンサでは圧倒的なシェアを維持しています。さらに、無線通信機能を搭載したタブレットPCの登場により、ムラタの得意とする高周波部品での成長も期待されます。

■ コンピュータ及び関連機器の売上構成比と売上高





※当社推計値

Automotive Electronics

[カーエレクトロニクス]

地球にとって、人にとって、車の技術はこれからももっと。

―だから、ムラタには、まだまだやることがいっぱい―

人と地球にやさしい環境性能を追求して、クルマの電子化や電動化が進んでいます。
セラミックの耐熱特性を活かした高信頼性電子部品が過酷な環境の中で性能を発揮。
大電力対応のパワーデバイスはハイブリッド車や電気自動車の進化を加速させます。

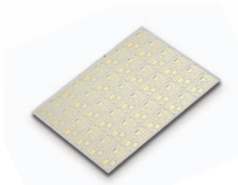
自動車の中にいるムラタの主要製品

積層セラミックコンデンサ（大電力用）

ハイブリッドカーのモータを制御するインバータ回路に使われる、大電力用の積層セラミックコンデンサ。省スペース設計に対応しています。

MEMSジャイロセンサ

MEMS技術を用いた構造で、旋回運動を検出し、ナビゲーションやロボットの姿勢制御に使用されます。テレマティクスや動作制御の発展に貢献します。



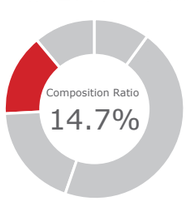
LTCC多層基板

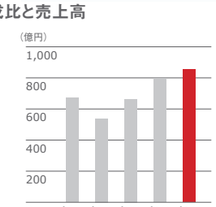
低温焼成のセラミック基板で、高信頼性が要求されるパワートレインコントロールのECU（エレクトリックコントロールユニット）や安全性向上などのレーダーモジュールなどに使用されます。

エコ、安全、快適のための多彩な電子部品需要。

エコカーが主流になるにつれて自動車の電子制御化が一層進み、コンデンサをはじめとした電子部品の需要は急速に伸びています。また、安全装備に用いられる各種センサや、Bluetooth®モジュールなども好調。自動車関連全体では今後も高い伸びが期待できます。

■ カーエレクトロニクスの売上構成比と売上高





※当社推計値

Home Appliances

[家電]

エコな暮らし、おしゃれだと思います。

―ムラタの電子部品で、ちょっとスマートに―

空調機器や照明器具など、日々の暮らしで使う家電製品には、
より一層の省エネルギー化と環境への配慮が求められています。
低損失で長寿命なセラミックコンデンサや変換効率の高い電源モジュール、
機器の利用状況をモニタして制御するセンサや通信モジュールなどが、
スマートなホームエレクトロニクスを支えています。

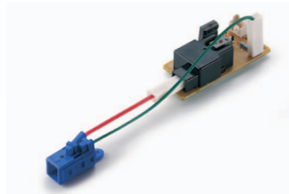
家電製品の中にいるムラタの主要製品

ロータリポジションセンサ（SVシリーズ）

洗濯機など白モノ家電の回転スイッチに使われる小型で安価な角度センサです。セット機器の小型化と低価格化に貢献します。

モータ起動用ポジスタ®

冷蔵庫用コンプレッサーを起動するときに発生する電流を制御。省エネ運転で低炭素社会実現に貢献します。



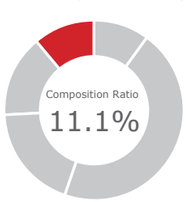
イオナイザ（イオニシモ®）

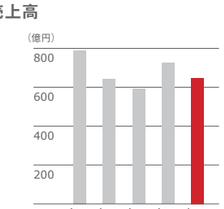
カビやウイルス、空気清浄対策ならびに肌保湿に有効なイオン発生装置。空気をケアする新しいライフスタイルを提案します。

新しい豊かさとしてのエコ価値の提案。

いわゆる白モノ家電は生活の豊かさを実感できる商品ジャンルです。新興国市場では冷蔵庫やエアコン用のサーミスタなどが拡大しています。先進国では、家電製品は省エネ化の主要なターゲットであり、LED照明の電子制御部分などにも、ムラタの電子部品が使われています。

■ 家電・その他の売上構成比と売上高





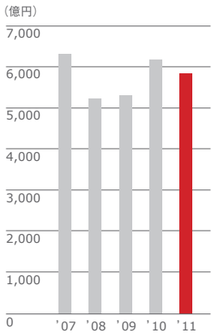
※当社推計値

Financial Highlights

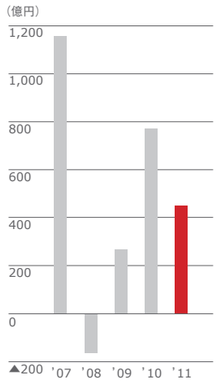
成長を続けるエレクトロニクス市場。
ムラタの電子部品が、それをリードします。

ムラタは、2011年度、スマートフォン、タブレットPC、
カーエレクトロニクス向けが好調に推移するものの、ノートPC、薄型テレビなどの
その他の電子機器の生産が低調だったことから、減収減益の結果となりました。
2012年度は、スマートフォン、タブレットPCのさらなる拡大、
自動車の電装化の進展、その他の電子機器の生産回復が見込まれることから、
大幅な成長が期待できます。

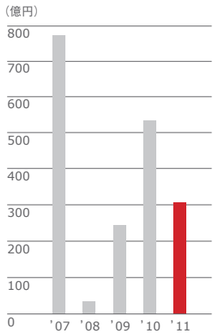
売上高



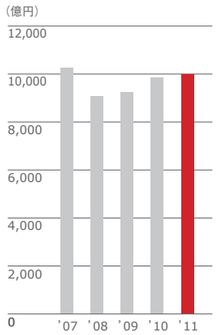
営業利益



当期純利益



総資産

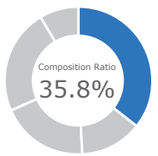


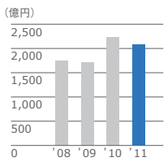
■ コンデンサ

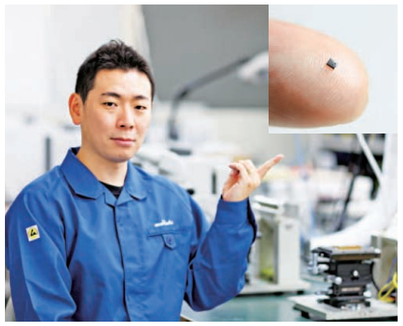
スペックのさらに先へ、
ムラタの強味を発揮する。

HV（ハイブリッドカー）、EV（電気自動車）など、自動車のエレクトロニクス化が進む中で、積層セラミックコンデンサでも車載用の需要が大きく伸びつつあります。人命にかかわることもある分野だけに厳しいスペックが要求されますが、それゆえにムラタの強味が発揮されるところです。

株式会社村田製作所 セールスエンジニアリング統括部
阿部 優子





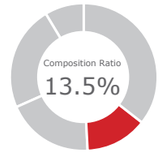


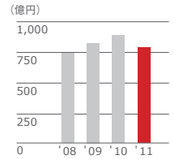
■ 圧電製品

先進国からBRICsへ、
さらに大きな市場を展望する。

表面波フィルタ、デュプレクサなど、携帯電話の中で周波数を選択的に通すデバイスの開発に取り組んでいます。スマートフォンやタブレットPCなど、先進国からBRICsへと大きなマーケットシフトが起こりつつある分野で、今後、さらに需要の拡大が期待されています。

株式会社金沢村田製作所 SAW商品部
山崎 直



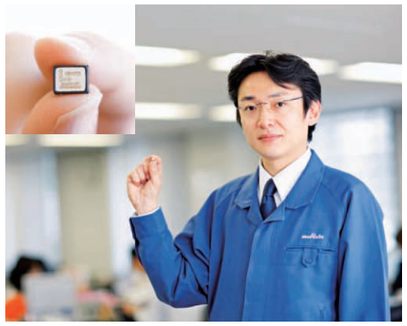


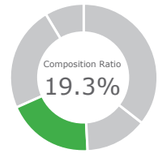
■ その他コンポーネント

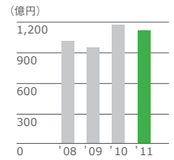
センサフュージョンで、
新たな価値提案に挑む。

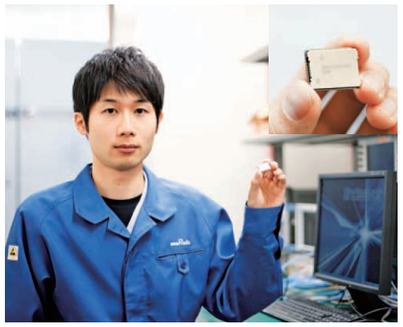
ムラタはこれまでさまざまなセンサ製品を提案してきましたが、これまでのセンサ単体での提案に加え、複数のセンサ信号を組み合わせた信号処理で、新たな機能を持たせようとしています。「センサフュージョン」と呼ばれるもので、モーションセンシングなど、新たな価値提案の実現を目指しています。

株式会社村田製作所 センサ事業部
酒井 貴智







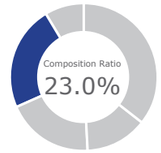


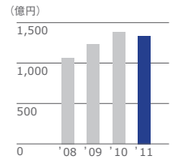
■ 通信モジュール

ネットワークソリューションを担う
高品質モジュール。

カーナビやカーオーディオなど、自動車分野で需要が伸びています。自動車に10年10万㎞の耐久性が求められるなら、ムラタの通信モジュールはそれ以上を目指します。今後は、ヘルスケアやエネルギーの新しい分野で、ネットワークソリューションの採用を大きく伸ばしていきます。

株式会社村田製作所 コネクティビティ商品事業部
川島 啓



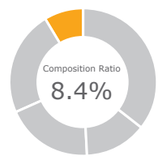


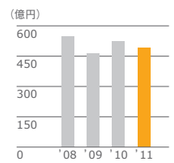
■ 電源他モジュール

業界標準へ、
新たな体制づくりに取り組む。

これまで、ムラタの電源モジュールはサイズや出力などの対応によるカスタム品を得意としてきましたが、これからは業界標準品も強化していきます。この市場は大きく、グローバルに広がっており、ムラタでは新しいマーケットに挑むべく、体制づくりを進めています。

株式会社村田製作所 パワーモジュール商品事業部
大谷 友紀





●国内外拠点一覧 Web

The Americas

売 上 高 406億円
従業員数 609人
関係会社 10社

Murata Americas
General Manager
Distribution Sales
Woody Wilder

Becoming a Global Company requires a collective effort!

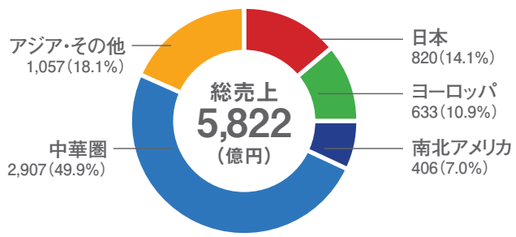
ムラタがグローバル企業として新時代をリードしていくために、ムラタアメリカスもグループの一員として革新的な製品やソリューションを提供し、進化し続けていきます。お客様の期待以上の新しいアイデアを提案し、ビジネスに展開していきます。

Global Network

さまざまな地域で、74社。
世界のそれぞれの場所で、ムラタらしく、新しく。

ムラタ製品のおよそ85%は海外で販売されています。
日本、アジア、南北アメリカ、ヨーロッパ。
それぞれの拠点が、同じポリシーのもとにお客様志向を貫くだけでなく、
それぞれの地域の企業市民として愛され、信頼される存在であるように。
そしてまた、それぞれの拠点が同じムラタの仲間として
ひとつの目的に向かって進んでいけるように。
世界のムラタが、足並みをそろえています。

■ 地域別売上高



※地域別売上高、関係会社数は2012年3月31日のものです。
※地域別売上高は、電子部品およびその関連製品の売上高です。

Europe

売 上 高 633億円
従業員数 1,093人
関係会社 16社

Murata Electronics Europe B.V.
Global Key Account Manager
Telecom Infrastructure
Jorma Patovirta

Global Networking with Local Support!

通信インフラのビジネス・ニーズは品質、信頼性、そして高速データ処理能力です。私たちは、グローバルな体制でお客様のR&Dをサポートし、お客様のご要望を超える優れたイノベーションを提供してまいります。

Japan

売 上 高 820億円
従業員数 22,548人
関係会社 24社

株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 商品開発統括部 部長
藤本 克己

飛び出せ!

ムラタでは、製品の差別化要素となる独自技術の創造と技術の垂直統合を実践できる優れた技術者集団を、専門ごとに構成しています。驚異的な粘りと誠実さで科学的管理を実践するムラタらしいエンジニアの風土に加え、お客様の求める価値をしっかり考えることができるエンジニア育成も目指しています。

Greater China

売 上 高 2,907億円
従業員数 7,013人
関係会社 15社

村田電子貿易(天津)有限公司
Sales Manager
柳 星哲(Xingzhe liu)

Challenge to the higher target!

中国は世界の生産基地であるとともに巨大な消費国にもなってきました。中国企業のグローバル化が加速し同業との競争が激しくなる中、積極的な需要開発と得意先ニーズに合った製品の提供が不可欠です。ムラタ中国はチーム一丸となってビジネス拡大に向けて取り組み、またお客様に驚きと感動を提供できる新製品の創出とムラタの発展に貢献していきます。

Asia and Others

売 上 高 1,057億円
従業員数 5,704人
関係会社 9社

Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.
Assistant General Manager
Process Engineering and Quality Improvement, MLCC Manufacturing Division
Wang Yanling

Transform to a Value Creation Center

ムラタシンガポールは、製造拠点・アセアン地域統括販売拠点として新しい価値を創造していくため、組織的な進化を遂げようとしています。必要とされる知識や技術を有するチームを編成し、ものづくりをさらに発展させていくと同時に、グローバルな部品調達やIT、ローコスト生産に関する構想などにおいても、積極的に価値を高めていきます。

●CSRへの取り組み Web

地球とともに、社会とともに、人とともに
Innovator in Electronics®

ムラタが創業以来、活動の礎としてきた社是には「文化の発展に貢献し」「会社の発展と協力者の共栄をはかり」「感謝する人びとともに運営する」という文言があります。これこそが、今日のCSRに通じる精神です。この社是を中心にすえて、ムラタグループの役員および従業員が、良き企業人として社会への責任を果たし、ムラタの経営理念のもとに誠実かつ公正に行動していくことを宣言した「CSR憲章」を定めています。また、CS（価値の創造と提供）とES（やりがいと成長）を大事な価値観と定め、新たに策定したコーポレートグランドデザインの実現に向けて、想いを共有するムラタのすべてのメンバーが自律的に取り組んでいきます。CO_2削減や生物多様性への対応といった地球環境保護への取り組みや、紛争地域の鉱物資源問題などの喫緊のグローバルな課題、あるいは昨年の東日本大震災のような未曾有の大災害に対しても、ムラタは地域・社会の一員としての責任を果たしていきます。一方、事業活動においては、働くすべての人の安全と健康を経営の最優先課題と位置づけ、安全で快適な職場環境づくりと心身の健康の保持増進に全組織をあげて取り組んでいます。この一環として、労働安全衛生マネジメントシステムの認証取得をひきつづき進めていきます。このように、ムラタはこれからも「地域や社会に開かれた存在であり、信頼し尊敬される企業であり続けること」「お客様にムラタと一緒にビジネスをすることについての安心感をもってもらうこと」を目指して、経営理念を基軸とする「CSR憲章」のもと、CSR統括委員会を組織して、さまざまな社会的要請に応えるという形で、整合性の取れた全社的なCSR経営を継続的かつ計画的に推進してまいります。

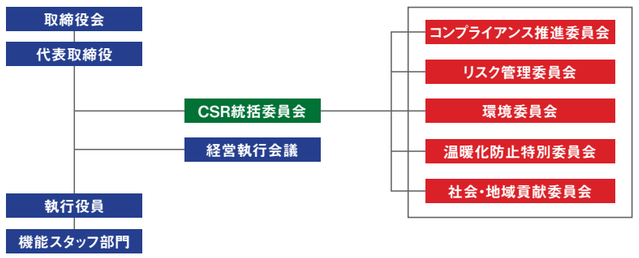
代表取締役社長 CSR統括委員会 委員長 村田恒夫

CSR憲章（概要）

ムラタでは、ムラタの経営理念をふまえて、法令の遵守はもとより、高い企業倫理観にもとづき、透明性の高いガバナンス、人権尊重、安全衛生、社会貢献、環境保全などに取り組むことにより、社会から信頼される企業であり続けることを目的として、当社に働くすべてのものが遵守すべき規範として「CSR憲章」を定めます。

- **企業統治**　私たちは地域や社会に開かれた存在であり、信頼され尊敬される企業であり続けるために、説明責任を果たし、経営の透明性を高めていきます。
- **人権と労働**　私たちは一人ひとりの人権を尊重し、尊厳をもって対応します。
- **安全衛生**　私たちは安全で快適な職場環境を確保し、従業員の健康管理をおこなうことで、製品・サービスの質と従業員のモラル向上をはかります。
- **環境保全**　私たちは企業活動の過程で生じる社会、環境、天然資源への悪影響を抑え、健康で安心して暮らせる社会の実現をめざします。
- **公正取引・倫理**　私たちは社会的責任を果たし、社会から信頼される存在であるために倫理の最高の水準をめざします。
- **管理の仕組み**　私たちはこのCSR憲章を遵守するための管理の仕組みを構築し、継続的な改善をはかります。

CSR関連委員会組織図

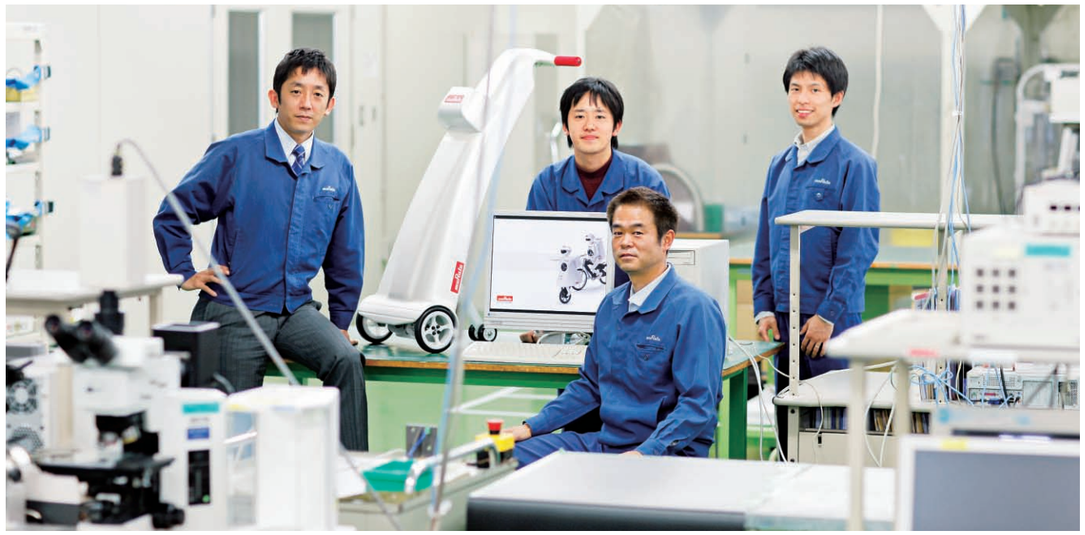


［報告対象範囲と情報開示体系］
本レポートでは、ムラタのCSRとその取り組みを把握していただきやすくするため、要点を絞って報告・編集しています。詳細な情報や事例、各事業所別の環境データなどは、株式会社村田製作所のホームページに掲載しています。なお、財務情報についての詳細は「投資家情報」をご覧ください。

［報告対象期間］
2011年4月1日～2012年3月31日
※一部、2011年3月以前、2012年4月以降の取り組みについても報告しています。

［報告対象組織］
村田製作所グループ（株式会社村田製作所および国内外の関係会社74社）

Web　このマークで示す項目はホームページでさらに詳しい情報を公開しています。



特集：新規事業とCSR［電動歩行アシストカー］

“倒れない技術”を、社会のために。セイサク君のテクノロジーを実用化。

何か新しいことにチャレンジしたい。セイサク君開発メンバーと社内公募で集まったメンバーで取り組み始めたプロジェクト。

「ムラタセイサク君®」は、さまざまなセンサや制御、通信などの技術が詰まった当社オリジナルの自転車型ロボット。一輪車型ロボットの「ムラタセイコちゃん®」とともに、ムラタの技術のPR役として活躍してきました。セイサク君の開発メンバーにとっても、いわば“自慢の子ども”でした。セイサク君とセイコちゃんはムラタのPRツールとして大活躍してくれましたが、開発メンバーとしては、それだけでは物足りません。この技術を使って、もっと人の役に立つもの、商品として世に出るものをつくりたい、という欲求がだんだん高まってきたのです。そんな思いからスタートしたのが、この「電動歩行アシストカー」のプロジェクト。セイサク君の開発メンバーに、社内公募で集まったメンバーを加えて、開発が始まりました。基本は、セイサク君、セイコちゃんの“倒れない”技術。ジャイロセンサが傾きを検知して、倒れる方向に車輪を動かすことにより直立を保ちます。複雑なスイッチ操作はせずに、軽く押す／引くの動作で前進／後進ができ、体重をかけても倒れない、上り坂も軽々と走行できる、というのが特徴。福祉機器やベビーカー、ショッピングカートなどに応用できるのではないかと展示会（CEATEC JAPAN）で発表したところ、業界の方々からたくさんのお問い合わせがありました。お年寄りや力の弱い女性に使ってもらいたい技術なので、安全性が第一。操作が簡単なことも重要なポイントです。誤動作はもちろん、誤操作も起こりえない設計をする、想定外のことも想定する、という心構えが必要です。商品化に向けて、プロジェクトのメンバーも拡大し、ブラッシュアップに取り組んでいます。電子機器の“中のこと”をやってきたムラタが、外に出る。事業を通して社会に貢献する。ワクワクするような気持ちで、開発は次のステップへと進んでいきます。

電動歩行アシストカーは、おもに「転倒防止」や「パワーアシスト」の機能を持ち、倒立振子制御により「スリム」なボディを実現できます。

写真左より
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部
新規事業推進統括部
久保 昌幸

株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 MIRAIプロジェクト課
羽根 宜孝

株式会社村田製作所
生産本部 生産技術開発統括部
辻 滋

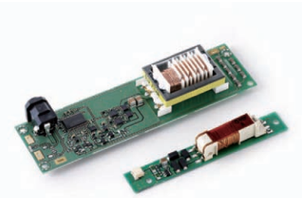
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 MIRAIプロジェクト課
白土 賢一

特集：新規事業とCSR ［ワイヤレス電力伝送システム］

プラグのいらない充電システム。高効率で使い易く、シンプルな構成を実現。

世界初、電界結合方式のワイヤレス電力伝送システム。インフラとしてスマートエネルギー社会に貢献する展望も。

電源コードを接続しなくても、一定の場所に置くだけでバッテリーに充電できる、それがワイヤレス電力伝送システム。何年も前、まだ夢の技術のように思われていた頃から、ムラタの新規商品開発グループで研究を進めてきました。電送システムには大きく分けてふたつの方式があります。ひとつは「電磁誘導方式」と呼ばれるもので、充電器側に埋め込まれたコイルに電流を流すと磁束が生じ、その磁束を介して機器側のコイルにも電流が流れる、という仕組み。送電側と受電側のコイルの位置あわせが厳密で、少しずれると格段に給電効率が落ちるのが課題です。また、コイルに電流を流すと必然的に熱が発生するので、そこでもエネルギーのロスが生まれます。もうひとつが「電界結合方式」。充電器側と機器側にそれぞれ電極を設置し、両方の電極が近接したときに発生する電界を利用してエネルギーを電送します。電極の間に容量が生まれる、つまりコンデンサの原理です。この方式では、小型化・薄型化が可能で、デザイン上の自由度が高く、多少位置がずれても（4cm程度）給電効率が落ちることはありません。また、基本的に熱が発生しないのでエネルギーのロスも少なくてすみます。ムラタは、この方式で特許を取得。2011年11月には、日立マクセル株式会社からムラタが開発したモジュールを用いた「エアボルテージ for iPad2」が発売されました。ワイヤレス充電システムが、いよいよ一般社会の生活の一部になってきました。この技術が発展していけば、さまざまな充電のプラグレス・コードレス化が進みます。これは省エネルギーに貢献できるほか、この技術で生活がさらに便利に変わっていきます。将来、スマートエネルギー社会が拓かれ、EV（電気自動車）が普及していく中で、ワイヤレス給電が人々の生活の欠かせない技術になっていくでしょう。ムラタは、この技術の可能性に、大きな夢を抱いています。



充電システムのワイヤレス化（電源コードなどを介さず、充電台に機器を置くだけで充電する）を実現できます。

写真左より
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部
新規事業推進統括部
酒井 博紀
篠田 悟史
市川 敬一
加藤 数矢
高橋 博宜
末定 剛
郷間 真治

環境特集 ［地球温暖化防止］

地球温暖化防止のリーディングファクトリーとして、これまでも、これからも。

全員参加で省エネにチャレンジし、さらに強いものづくりを目指す。

出雲村田製作所は、グループで最もエネルギー消費とCO_2排出量が大きい事業所であり、従来から積極的に省エネ・CO_2削減に取り組んできました。たとえば、排ガス燃焼装置の触媒化によるエネルギー削減。当社の製品はセラミックス、つまり焼き物であるため、高温で焼成する必要があります。このとき、さまざまな有機成分が排気ガスとして大気中に出るのを防ぐために、後段でさらに加熱して分解する排ガス処理装置を設置しています。ただ、この設備は多くの電力を使用するのが悩みの種でした。そこで導入したのが、当社の生産技術部門が開発した排ガス燃焼装置の触媒化技術です。これは従来装置と同等以上の排ガス処理能力を持ちつつ、触媒を用いることで加熱温度を大幅に下げることが可能になり、使用電力を従来の半分にするという画期的な技術で、当事業所のCO_2排出量を年間2,100t-CO_2削減することができました。また乾燥工程では、これまで電気ヒーターにより加熱していたものを、高温ヒートポンプを用いた温水ヒーターへと変更したことにより、年間400t-CO_2の削減を実現しました。さらに、従業員全員の省エネに対する意識を高め、従業員全員で省エネを推進するため、工程別に電力計を設置し、エネルギーの見える化を実施しました。これにより、同じ工程でも設備によって消費電力が違ったり、待機時と稼働時でほとんど消費電力が変わらなかったり、という、これまで見えなかったエネルギーの消費実態が明らかになってきています。ここで見えた問題を関係するメンバーで分析し、対策を実施することで、さらなる省エネが進むことを期待しています。いずれもムラタグループでは初めての試みであり、当事業所の取り組みがグループ全体に広がればと考えています。

株式会社出雲村田製作所
温暖化防止実務責任者
第2製造部 部長
門脇 浩己

環境特集 ［排水処理プラント］

廃棄物は環境に対するリスク。徹底的に削減することは、メーカーとしての社会的責任。

さまざまな部門の知恵を結集して実現した難分解性排水処理プラント。

野洲事業所の製造工程では、難分解性物質を含有する工場排水が出ます。その発生量は、国内のムラタグループの廃棄物の約4分の1。これまでは、外部の会社に委託してその処理を行ってきました。しかし処理量が多く、タンクローリー車で運搬する際の二酸化炭素の発生も無視できる状況ではありませんでした。さらに、万が一そのタンクローリー車が事故を起こした場合の社会的責任も考えなければなりません。このようなリスクを事業所の外に出さず、完全に内部で処理することが、環境保全の基本です。ムラタは、廃棄物削減の全社的な運動の中で、これを自前で処理するためにさまざまな検討を重ねてきました。

廃液を処理するにはさまざまな方法がありますが、処理のために膨大なエネルギーを消費するのでは本末転倒です。野洲事業所で構築したプラントは、触媒酸化によって有害物質を分解し、残る有機物は生物処理によって分解する、という仕組み。もちろん、製造工程の中で廃液そのものを少なくする工夫も必要で、廃液を処理しやすい形で工程から排出することも考えなければなりません。そのため、プロジェクトには開発部門や施設管理部門など、さまざまな部門からメンバーが集まり、知恵を出し合い、この廃液を処理することができるようになりました。今では、プラントから出てくるのは水だけ。琵琶湖を抱える地元滋賀県の厳しい水質基準をクリアしています。

写真左より
株式会社村田製作所
材料開発統括部
吉井 和弘
株式会社村田製作所
化学材料製造部
森田 強司
大村 健
株式会社村田製作所
野洲事業所 管理部
山本 恭平
今村 圭志
藤野 尚志

［環境保全推進］

本業をより強くするための環境マネジメント活動になるよう努めています。

ムラタでは、国内外でISO14001の仕組み（EMS）を統合し、より効率的で実効性の高い環境活動に取り組んでいます。その中で、全社事務局として「効率化」と「本業とEMSのつながり」のふたつを意識しています。「効率化」については、EMSの運用負荷を軽減するため、重点志向や、帳票・システムの操作性向上などを意識して改善を進めています。また、「本業とEMSのつながり」ではEMS活動自体を目標にするのではなく、自部門の業務が目標と結びつくようにサポートしています。これによって本業での改善活動とEMS活動をつなげ、本業をより強くしていく活動になるよう努めています。

株式会社村田製作所
環境部
中田 佳代

環境マネジメント

ムラタは、2009年度に国内全事業所および海外全生産拠点で、環境マネジメントシステムにもとづく環境経営の枠組み統合を完了。環境経営にかかわる情報を共有し、効率的で実効性の高い環境活動の推進とガバナンスの強化を目指します。

持続可能な生活を意識することなく実現できる、そんな未来を目指して。

私たちの事業部で取り扱っている電気二重層キャパシタは、瞬時に蓄電・放電できる部品で、一般環境では半永久的に使用できます。この特徴を利用し、小さな発電素子と組み合わせて電池不要な電子機器が実現できます。また、出力変動を吸収することで電池の長寿命化を助けることも可能です。「電池の寿命が来たら買い替え」という消費スタイルが定着している機器では電池の長寿命化が製品の長寿命化につながります。電気二重層キャパシタが内蔵された機器を使う人が無意識にロハスな（持続可能な）生活ができることを想像しながら日々開発しています。

環境配慮設計

ムラタでは、部資材購入、設計・開発、生産、使用、リサイクル・廃棄の製品の全ライフサイクルにわたる環境負荷に配慮した製品づくりを行っています。

株式会社村田製作所
化学デバイス商品統括部
森 豊貴

仕入先様とのより良い関係を築きながらグリーン調達の強化に努めています。

私たちは、グリーン調達を強化するために、仕入先様に対してGLIS（Green Level Investigation Sheet）の提供をお願いしています。しかし、すべての仕入先様にグリーン調達の重要性をご理解いただけている状況ではありません。そこで、仕入先様への研修会の開催、公共機関による無料セミナーの案内、個別研修の実施など、ご理解いただくためのさまざまな働きかけを行っております。昨今、海外生産移管の影響を受けて、化学物質の調達が急速に増えています。仕入先様とのより良い関係を築き、強固な環境マネジメントシステムの構築に努めていきたいと思います。

グリーン調達・グリーン購入

製品の環境負荷低減のためには、環境負荷の低い部資材を調達する「グリーン調達」が必要です。そこでムラタでは仕入先様に、環境経営を実践していただくよう理解と協力を求めています。

Murata Electronics（Thailand）, Ltd.
Purchasing Control Section
左/ Nantanarissara Moonrungsee
右/ Poonyarak Setungkabutr

原料容器のリユースを海外拠点へと水平展開。

岡山村田製作所では、セラミックス原料を国内外の生産拠点に供給しています。従来から、原料梱包容器（以下、容器）のリユースを推進してきましたが、海外拠点、とりわけ中国では、これまで使用後の容器は現地で処分していました。そこで私たちは積み重ねてコンパクトにでき、輸送コンテナにぴったり収まる容器を開発し、使用後の容器を返送してリユースする仕組みを構築しました。海外拠点を含めたムラタグループの協働により、輸送効率がアップし、省資源、物流CO_2削減へ、さらに一歩前進することができたと思います。

環境配慮型物流・包装の推進

製造段階だけでなく、製品を輸送する物流段階においても環境負荷削減に取り組んでいます。輸送の効率化でCO_2を削減するとともに、包装材を削減して廃棄物を減らしています。

株式会社岡山村田製作所
第1製造部
大前 修作

地域に根付いた景観の維持を通して、ムラタの環境保全への理解を

八日市事業所では、操業以前から植栽されているアカマツ林と、滋賀県の花である「シャクナゲ」が共存している「シャクナゲ園」を1991年から一般公開しています。20年以上続くこの行事を通じて地域の方々と交流し、事業所の環境保全活動を理解していただけるよう努めています。また、敷地内の農園における地元NPOとのイモ掘りイベントや、小学校への出前環境/理科学習を通して地域の方々とのつながりを深める活動を推進しています。

環境リスクコミュニケーション

ムラタでは、事業活動が地域社会に及ぼすリスクの最小化と問題発生時の迅速な対応に努めるとともに、ムラタの環境保全活動について地域の方々にご理解いただくため、会社見学会を開催するなどの情報公開にも努めています。

株式会社村田製作所
八日市事業所 管理部
左/ 藤川 雅恵
右/ 北川 琴美

100年先を見据えた森林保全活動を。

登米村田製作所では、事業活動にともなう生態系への影響を考慮し、生物多様性の保全活動に取り組んでいます。当社が所在する登米市は、ラムサール条約指定地として国際的にも注目されている伊豆沼・内沼があり、冬になると市内中心部を流れる迫川にまで多くの渡り鳥が飛来する自然豊かな町です。当社では、これらの水鳥の生息地としての湖沼・河川の保護活動を行うことはもとより、100年先を見据えた森林保全育成活動にも積極的に取り組んでいます。今後、植林など実作業の他にも、生物多様性に関する講演の開催や社内報などを通じて、従業員の意識向上にもこれまで以上に力を入れていきたいと考えております。

株式会社登米村田製作所
製造2課
木川田 圭一

株式会社登米村田製作所
品質管理課
山内 勉

生物多様性の保全

ムラタでは、事業活動と生物多様性の関わりを考え、以前より生態系の保全や再生活動に力を入れてきました。2011年1月には環境方針の中に生物多様性の保全に関する行動指針を追記し、これらの活動をさらに加速するとともに、従業員の生物多様性保全の重要性に関する意識向上にも努めています。

［従業員への責任と行動］

人権を尊重し、安全かつ衛生的で調和の取れた職場環境を実現する。

人の成長を促し、新たなコミュニティ形成に寄与して、新興工業都市の外資系企業の中で模範となるESの実践。

無錫村田電子有限公司は、近年、急速に工業化が進む長江南岸の無錫市にあります。多くの外資系企業が進出している無錫新区の中でも、ムラタはとくに目立つ存在といえます。コンプライアンスを推進し、人権を尊重し、また積極的に福祉活動に貢献することで、地元政府と地元社会から高い評価を得て、何度も「優秀外資企業」「経営真実性新企業」「調和労働関係模範企業」「優秀ボランティア活動企業」として顕彰されてきました。その根底には「CS」と「ES」を大事な価値観とするムラタの経営理念があります。従業員の団体である「工会」と会社側がよくコミュニケーションを取り、安全で衛生的な職場環境をつくって作業者の労働負担を軽減し、心身ともに健康に働けるようにするために、たえず改善を行っています。また、「学習と成長」活動に力を入れ、一人ひとりが自ら問題を発見し、解決していく能力を育てています。とりわけ管理職、現場スタッフや班組長のコミュニケーション能力の開発に重点を置き、風通しのよい職場をつくってきました。勤務時間外でも、誕生日ランチや文化祭、運動会など、さまざまなイベントを通して、交流する機会もつくっています。急速に発展してきた無錫で働く人の多くは、中国各地の農村部から出てきた人たちです。無錫は、故郷を離れ、孤独に暮らす人が多い都市といえますが、徐々に新しいコミュニティもできつつあります。ムラタの取り組みはそれに一役買っているといえるでしょう。このようにして「ES」を追求することは、私たちの職場を活性化するだけでなく、ここから生み出される製品の品質向上にもつながり、ひいては「CS」の向上にも貢献するものです。グローバルに展開するムラタグループの各拠点からも、また、お客様からも注目されていることを自覚し、さらに素晴らしい職場をつくっていきたいと思います。

写真左より
無錫村田電子有限公司 人事科
符黛賢（Fu Daixian）
無錫村田電子有限公司
管理統括部
鍾偉躍（Zhong Weiyue）
無錫村田電子有限公司 人事科
張 瑩（Zhang Ying）
無錫村田電子有限公司 人事科
朱 恬（Zhu Tian）

［社会・地域への責任と行動］

世界規模で考えながら、それぞれの地域への関わりを深める。

中国の子どもたちに科学やものづくりの魅力を伝える活動の展開

日本だけではなく中国においてもムラタセイサク君®とムラタセイコちゃん®は、展示会やイベントに参加し、たくさんの人々に愛されています。Murata（China）Investment Co., Ltd.ではより一層地域社会に役立つ活動を展開するため、子どもたちに科学やものづくりの魅力を伝えたいという想いのもと、2010年に上海、蘇州の日本人小学校向けに理科授業を実施、2011年には中国現地の学校も訪問して、子どもたちに理科授業を実施しました。今後も中国に根差したビジネスを展開していくとともに、科学やものづくりの魅力を伝える活動を積極的に行いたいと考えています。

リサイクル活動を通じた社会貢献

岡山村田製作所では、2003年からアルミ缶を回収し、その収益を基に地元の社会福祉協議会や小学校などに車いすや図書を寄贈しています。さらに2008年からは使用済インクカートリッジを回収して近隣の幼稚園に寄贈し、ベルマークに交換してもらうことで、遊具の購入に役立ててもらっています。また寄贈の際は学校や幼稚園を訪問し、環境保護への関心が高まるよう、ムラタでの環境保全活動を紹介しています。今後も社会・地域の方々に喜んでいただける取り組みを継続し、従業員が誇りを持てる事業所づくりを目指していきます。

1 大勢の子どもたちに見守られながら走るセイサク君とセイコちゃん

1

2

3

4

3 アルミ缶回収風景
4 園児へインクカートリッジを寄贈する従業員

タイで発生した自然災害への支援活動

昨年タイで発生した暴風雨や洪水などによる自然災害により、Murata Electronics（Thailand）, Ltd.でも被害を受けた従業員がおりました。
そこでMurata Electronics（Thailand）, Ltd.では、企業のポリシーにもあるように、被災した従業員への支援を実施しました。具体的には、被災した従業員の自宅に浸水を食い止めるための砂袋を提供したり、食料や飲料水などの生活必需品を贈ったり、資金援助を行ったりしました。
また、村田製作所もタイ赤十字を通じて災害復旧支援のための寄付を行いました。

2 被災した現地従業員への食料や飲料水の支援活動風景

[CSR活動における目標と実績]

ムラタでは、重点取り組みテーマを設定し、
各種施策を推進して継続的な改善に取り組んでいます。

○: 達成
△: ほぼ達成
×: 未達成

■第5次環境行動計画に対する2011年度の実績

項目		対象	2011年度目標	2011年度実績	評価
【1】製品の環境配慮		グローバル	環境配慮製品の拡充と環境配慮技術(工法)開発の継続	小型化、省エネ、環境負荷物質削減等の設計開発を着実に進めた。 また、50件以上のエコプロダクツ基準を満足する製品開発を行った。	○
		グローバル	製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替の遂行継続	環境負荷化学物質の削減・代替を計画どおり進めた。	○
		グローバル	環境配慮製品の拡売による低環境負荷社会への貢献	・環境配慮製品の提案・認定取得・拡売の活動を展開し、多くのユーザーから認定が得られ、既存品からの置き換えに移行中である。 ・LED照明システムのトータルソリューション提供を進め、タスクアンドアンビエント照明システムの効果および機能の検証を開始した。	○
【2】温暖化対策	(1)生産拠点における取り組み	グローバル	品種別CO_2排出量と数量原単位の把握	・国内生産拠点における品種別CO_2排出量と数量原単位を把握する仕組みを構築し、運用を開始した。 ・シンガポール、タイ、深圳の生産拠点において、品種別のCO_2排出量と数量原単位の把握に着手した。	○
		国内工場	製造時におけるCO_2排出量削減施策の実施とモニタリング	・製造時におけるCO_2排出量削減施策の実施計画を立案し、計画に基づいて削減施策の実施に取り組んだ。	○
		海外工場	製造時におけるCO_2排出量把握	・製造時におけるCO_2排出量の把握を開始した。 ・シンガポール、タイ、深圳の生産拠点において、製造時におけるCO_2排出量削減施策の実施計画を立案した。	○
	(2)物流における取り組み	国内工場	物流におけるCO_2排出量の実質生産高原単位2007年度比15%削減	2007年度比31%削減。 物量変動に応じた小まめな運行計画の見直し継続により、大幅なCO_2排出量の抑制を実現することができた。	○
		海外工場	物流におけるCO_2排出量の把握	海外工場からお客様向け出荷における物流CO_2排出量の把握を開始した。	○
	(3)グリーン購入に関する取り組み	国内工場	グリーン調達率100%の維持継続	グリーン調達率100%を維持することができた。	○
【3】化学物質		国内工場	環境負荷化学物質使用量原単位2007年度比1%削減	2007年度比1%増加。 前年比で4%削減できたが、目標達成には至らなかった。	△
		海外工場	環境負荷化学物質使用量把握	海外工場で使用量の把握を開始した。 無錫、深圳では使用量削減に向けた取り組みを開始した。	○
【4】省資源・資源循環	(1)廃棄物に関する取り組み	グローバル	廃棄物排出量原単位2007年度比1%削減	2007年度比3%削減。 野洲事業所に廃アルカリの処理施設を導入したことにより、目標を達成することができた。	○
		海外工場	ゼロエミッション達成に向けた取り組み継続	無錫、深圳、台湾、タイの4拠点において、ゼロエミッションを維持した。	○
	(2)容器包装における取り組み	グローバル	内作原料のエコ容器への切替え率10%以上	切替え率10%以上達成。 総流通容器数量約200K本に対して、約65K本新規投入した。(約30%)	○
	(3)生産工程における取り組み	グローバル	原材料ロス率の低減	各工程ごとに収率UPなどの改善策に取り組んだ。	○
【5】生物多様性		グローバル	生物多様性に関する従業員教育の実施	今期より環境一般教育の中に生物多様性に関する項目を追加し、全従業員に対し予定どおり教育を実施した。	○
		グローバル	生物多様性をテーマとした小中学生向け環境学習の実施	当社が里山保全活動を進めている「ムラタの森」を活用した新たな環境学習プログラムを作成し、パイロット実施を行った。次年度以降、さらなる展開に向けて取り組む。	○
【6】環境社会貢献活動		グローバル	環境社会貢献活動の継続実施	地域、社会に密着した事業経営を実現するため、小中学生向け環境学習の実施やムラタの森と題した里山保全活動、事業所緑化活動などを継続的に実施した。	○

○: 達成
△: ほぼ達成
×: 未達成

■2011年度の社会性目標に対する実績と2012年度の目標

項目	2011年度目標	2011年度実績	評価	2012年度目標
内部統制システムの整備推進	業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、継続的に業務の標準化・見える化や業務改善・改革を推進する。	業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、継続的に業務の標準化・見える化や業務改善・改革を推進しており、さらに整備対象範囲を拡大している。また、コンプライアンスや業務の有効性・効率性を目的とした内部統制整備・評価については、連結対象拠点をほぼカバーしている。	○	業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、継続的に業務の標準化・見える化や業務改善・改革を推進する。
	業務の適正性を確保するためのモニタリング機能を充実させ、コーポレート・ガバナンス体制における透明性と実効性を向上させる。	国内外のモニタリング対象グループ会社をほぼ100%カバーするべく順次拡大するとともに、リスクアプローチにより重点項目を独立した内部監査部門が評価・モニタリングすることで、透明性と実効性を向上させている。	○	業務の適正性を確保するためのモニタリング機能を充実させ、コーポレート・ガバナンス体制における透明性と実効性を向上させる。
コンプライアンスの推進	グループ横断的な視点から再構築・合理化したコンプライアンス体制の充実を図る。 ①コンプライアンスアンケート、行動指針確認テストの継続。 ②コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信。 ③コンプライアンス推進強化月間の定着。	①コンプライアンスアンケートおよび行動指針確認テストを実施した。 ②コンプライアンス推進活動報告を年4回、11月からはニュース、Q&A、クイズなど日常的なコンプライアンスに関する情報を毎月1回発信した。 ③当社および国内関係会社において、10月を強化月間とし、コンプライアンスに関する勉強会等の施策を集中して行った。	○	グループ横断的な視点から再構築・合理化したコンプライアンス体制の充実を図る。 ①コンプライアンスアンケート、行動指針確認テストの継続。 ②コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信。 コンプライアンス知識に関するメールマガジン 12回/年 コンプライアンス推進活動に関するメールマガジン 4回/年 ③コンプライアンス推進強化月間の定着。
リスクマネジメントの強化	全社的な事業リスクについて、対応を強化すべきリスクの検討を継続するとともに、各リスク担当部門のリスク対応状況の継続的なフォローを行い、リスクマネジメント活動の強化を図る。	主要なリスク項目について対策の実施状況を確認し、継続的な改善を進めた。	○	全社的な事業リスクの中から重点的に取り組むテーマについて対策を強化するとともに、リスクマネジメント活動を通じて各種リスク対策の継続的な改善を図る。
	東日本大震災での教訓をふまえ、災害時の緊急事態対応や建物・生産設備の耐震化などの対策の有効性の再評価を行い、危機管理体制全般の強化を図る。	災害時の連絡手段、社員の安否確認手段を確保した。また、建物・生産設備の耐震化の再評価を行い必要な追加措置をとった。	○	非常時の事業継続を目的とした事前対策を強化するとともに、危機対応体制全般の強化を継続して実施する。
社会・地域への責任と行動	・小中学生を対象とした理科教育を通じ、未来を担う人材(イノベーター)の育成支援を行う。 ・近隣社会に根差した地域貢献活動を積極的に行う。	・各事業所において、地域の小中学校と連携し、電子工作教室や環境教育などの授業を企画・実行。 ・多くの従業員がボランティアとして参画し、事業所開放イベント、地域清掃活動、森林保全活動を実施。	○	地域社会に定着し認知される社会地域貢献活動を継続して行う。
仕入先様への責任と行動	国内外すべての購買担当者に対して、コンプライアンス、CSR調達に関する理解度確認テストを実施。	・国内全購買担当者に対して、コンプライアンス、CSR調達に関する理解度確認テストの実施完了。 ・海外全購買担当者に対して、理解度確認テスト実施中。	△	国内外すべての購買担当者に対して、コンプライアンス、CSR調達に関する理解度確認テストを実施。
	遵法性体制強化のための社内研修会と業務診断を購買拠点に実施。	・関係部門に対して、遵法性強化のための研修会を5回実施。(約150名参加) ・購買担当者向けの法律・契約研修会を実施。(約30名参加) ・資材業務診断を購買拠点に実施完了。	○	遵法性体制強化のための社内研修会と業務診断を国内外購買拠点に実施。
	海外全資材拠点にて、仕入先からのCSR合意書取り寄せの取り組み開始。	・海外全資材拠点にて、仕入先からのCSR合意書取り寄せの取り組み開始完了。	○	海外全資材拠点にて、仕入先からのCSR合意書取り寄せの取り組み完了。
				仕入先様との取引について、当社および国内全関係会社の社員に対しコンプライアンスの周知徹底。
従業員への責任と行動	・適性に応じたキャリアを選択できる制度を引き続き実行。 ・社内公募制度の拡大展開。 ・新卒入社2年目社員の配属適性調査とフォローアップの実施。 ・新卒入社4年目社員の自己申告制度、キャリア形成プログラムの実施。 ・外国人出向者の受け入れ推進。 (2011年度　20人)	・新卒入社2年目社員全員に対し配属適性調査を実施し、希望者には今後のキャリア形成についてヒアリングした。 ・新卒入社4年目社員のうち人事異動のなかった約100人を対象に今後のキャリア形成について個人面談を実施した。 ・外国人出向者の受け入れ　21人	○	・適性に応じたキャリアを選択できる制度を引き続き実行。 若年層社員の自己申告制度、キャリア形成プログラムの実施。 ・外国人出向者の受け入れ推進。　2012年度：30人 ・シニア層の活躍を支援する制度の導入・拡充。 シニアエキスパート制度の実施。 キャリアマネジメント研修会の実施。　2012年度：10回
	・ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続。 ・セクハラ・パワハラ研修未受講役職者全員に対して研修を実施する。 (2011年度 5回実施)	・本社・東京支社・各事業所あわせて役職者向け研修会計23回、一般職者向け、女性向け研修会計4回実施した。	○	ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続。 (セクハラ・パワハラ研修未受講役職者全員に対して2012年度5回実施。一般職者向けに2012年度2回実施)
	1.ダイバーシティと自律に対応した福利厚生制度の導入・定着化。 2.職種や顧客等に応じた多様な働き方の推進支援。 3.仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実・定着化。	1.自律支援・健康支援・両立支援の3分野を対象とした選択型福利厚生制度を新規に導入した。 2.-①MIP制(企画業務型および専門業務型裁量労働制)の対象範囲を拡大した。 (2012年3月末時点の適用者数　369人) 2.-②業務の繁閑に合わせた個別設定休日を年2日設定した。 3.-①次世代法にもとづく一般事業主行動計画を立案し、実行した。 3.-②社員の子女を対象とした仕事体験と会社見学会の実施。(2011年11月3日実施　14人参加) 3.-③時間単位有給制度の実施。	○	・ダイバーシティと自律に対応した福利厚生制度の定着化。 ・仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実・定着化。
	1.グローバル人材の育成を含むものづくり教育の推進。 2.マネジメント力の向上に向けた研修の実施とそのPDCAの実施。	1.-①新入社員対象の海外工場実習を実施した。 (期間6ヶ月　対象11人) 1.-②製造部門の異業種交流会を実施した。 (ムラタ11名、他社8人) 1.-③国内英語教育を実施した。(3.5h×8回　対象231人) 2.-①マネジメント力向上の集合研修とそのフォローアップ研修を実施した。 (対象:集合研修205人、フォローアップ66人) 2.-②フェイズを5段階に分けて、フォローアップのスキルの定着のPDCAを回した。 2.-③状況対応リーダーシップ研修を実施した。(対象159人)	○	・経営理念浸透・共有策のさらなる推進。 ・グローバル化教育の実施。(英語強化研修　上下期各1セット実施) ・次世代リーダー研修の実施。
	国内10事業所を対象に労働安全衛生マネジメントシステムの外部認証取得を進める。 緊急時に従業員およびその家族の安否をタイムリーに把握できる体制を強化する。	・国内9事業所が外部認証を取得した。 ・ムラタグループの従業員を対象に安否確認システムを導入し運用を開始した。	△	国内12事業所を対象に労働安全衛生マネジメントシステムの外部認証取得を進める。

第三者からのご意見

ムラタのCSRに寄せて

村田製作所のCSR情報は、本冊子「Murata Report 2012」とWebの詳細版の二つを併せてひとつの報告となります。本冊子では重要な項目だけを掲載し、詳細なデータ等はWebで開示されています。また冊子は、村田製作所のCSR経営を理解してもらうための基本情報として、企業情報とCSRの基本情報の2つの部分から構成されています。どちらの部分も、写真を多く活用して従業員の想いが伝わる記述がなされており、親しみを感じます。

重要な項目は冊子に掲載されていますが、年次報告であることの意義を明確にするためには、方針や組織の説明と、実績結果とのあいだが見えるような仕組み、年々の動きが分かるようなKPI（主要な指標）情報が必要ではないかと考えます。社会性項目のKPIを構築することは容易ではありませんが、PDCAのマネジメントサイクルを回していくことが重要です。個々の活動についても、もう少し詳しく開示されることも検討されて良いように思います。

特集「新規事業とCSR」では、高齢化社会や次世代のエネルギー事情に対応する新製品が紹介されています。社是に示された言葉の実現であり、本業のなかにCSRが組み込まれている実例です。社会のニーズに応えて社会の発展に貢献する事業を展開していくことは大切なことです。今後は、社是と実例の間にある中期経営計画などとの関連も開示するなどして、意思決定の透明性をより明確にされれば、さらに良くなることでしょう。

村田製作所グループはグローバルに展開されており、CSRについてもグループ全体に浸透させています。本報告書においても中国やタイの記事が紹介され、日本国内と同様の活動をしていることが伺われます。Webのデータ編では、海外物流のCO_2の把握も開始されるなど、グローバルでのマネジメント体制を構築されつつあります。グローバル企業のCSR経営を展開するため、グローバルで進捗状況を把握し管理するための共通の指標となるものを構築されることをお薦めします。

神戸大学大学院 経営学研究科 教授
國部 克彦氏

Profile

国内外拠点一覧

[国内拠点一覧]

村田製作所 / 本社・支社・事業所・営業所

本　社	株式会社村田製作所
支　社	東京支社
事業所	横浜事業所／野洲事業所／八日市事業所／長岡事業所
営業所	仙台／水戸／さいたま／東京／立川／浜松／名古屋／安曇野／京都／神戸／岡山／福岡

国内関係会社

株式会社福井村田製作所	株式会社小諸村田製作所
株式会社出雲村田製作所	株式会社ワクラ村田製作所
株式会社富山村田製作所	株式会社登米村田製作所
株式会社小松村田製作所	株式会社大垣村田製作所
株式会社金沢村田製作所	アスワ電子工業株式会社
株式会社岡山村田製作所	穴水電子工業株式会社
株式会社金津村田製作所	村田土地建物株式会社
株式会社鯖江村田製作所	株式会社ムラタ栄興
株式会社イワミ村田製作所	株式会社ムラタアクティブパートナー
株式会社ハクイ村田製作所	株式会社ムラタエレクトロニクス
株式会社氷見村田製作所	ムラタソフトウェア株式会社
株式会社アズミ村田製作所	ムラタ分析パートナー株式会社

[海外拠点一覧]

North & South America　南北アメリカ

U.S.A.	Murata Electronics North America, Inc.
	SyChip, L.L.C.
	Murata Power Solutions, Inc.
	VTI Technologies, Inc.（平成24年5月31日現在）
Canada	Murata Power Solutions（Toronto）ULC
	Murata Power Solutions（Canada）ULC
Mexico	Murata Electronics Trading Mexico, S.A. de C.V.
Brazil	Murata World Comercial Ltda.

Europe　ヨーロッパ

Netherland	Murata Electronics Europe B.V.
	Murata Electronics（Netherlands）B.V.
Germany	Murata Elektronik GmbH
U.K.	Murata Electronics（UK）Limited
	Murata Power Solutions（Milton Keynes）Limited
	Murata Power Solutions（Celab）Limited
	Celab Power Management Limited
	NCL Holdings Limited
France	Murata Electronique SAS
Italy	Murata Elettronica S.p.A.
Finland	Murata Electronics Oy
	Murata Consumer Electronics Oy

上記の国以外にスペイン、スウェーデン、ハンガリー、スイスにセールスオフィスを設置しています。

Asia　アジア

China	村田（中国）投資有限公司 （Murata（China）Investment Co., Ltd.）
	無錫村田電子有限公司 （Wuxi Murata Electronics Co., Ltd.）
	深圳村田科技有限公司 （Shenzhen Murata Technology Co., Ltd.）
	村田電子貿易（天津）有限公司 （Murata Electronics Trading（Tianjin）Co., Ltd.）
	村田電子貿易（上海）有限公司 （Murata Electronics Trading（Shanghai）Co., Ltd.）
	村田電子貿易（深圳）有限公司 （Murata Electronics Trading（Shenzhen）Co., Ltd.）
	賽芯電子技術（上海）有限公司 （SyChip Electronic Technology（Shanghai）Ltd.）
	村田电源技术（上海）有限公司 （Murata Power Solutions（Shanghai）Co., Ltd.）
	广州村田电源技术有限公司 （Guangzhou Murata Power Solutions Limited）
	Beijing VTI Sensor Co., Ltd.（平成24年5月31日現在）
Hong Kong	村田有限公司 （Murata Company Limited）
Taiwan	台湾村田股份有限公司 （Taiwan Murata Electronics Co., Ltd.）
Korea	韓国村田電子株式会社 （Korea Murata Electronics Company, Limited）
Singapore	Murata Electronics Singapore（Pte.）Ltd.
Thailand	Murata Electronics（Thailand）, Ltd.
	Thai Murata Electronics Trading, Ltd.
Malaysia	Murata Electronics（Malaysia）Sdn. Bhd.
Philippines	Murata Electronics Philippines Inc.
	Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.
India	Murata Electronics（India）Private Limited
Vietnam	Murata Electronics（Vietnam）Co., Ltd.

株式会社 村田製作所
Murata Manufacturing Co., Ltd.

役員一覧

平成24年7月1日現在

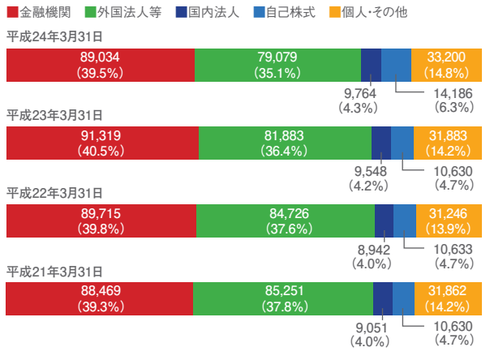
代表取締役	取締役社長	村田 恒夫
	取締役副社長	藤田 能孝
取締役	村田 恒夫	
	藤田 能孝	
	家木 英治	
	牧野 孝次	
	棚橋 康郎（社外取締役）	
	吉原 寛章（社外取締役）	
監査役	常勤監査役	中山 素彦
		吉野 幸夫
	監査役	豊田 正和（社外監査役）
		中西 倭夫（社外監査役）
		西川 和人（社外監査役）
執行役員	常務執行役員	家木 英治
		牧野 孝次
		濵地 幸生
	執行役員	西村 昌雄
		小島 祐一
		井上 亨
		間所 新一
		岡田 剛和
		中島 規巨
		薗田 聡
		岩坪 浩
		前川 利弘
		竹村 善人
		鴻池 健弘
		丸山 英毅
		多田 裕
		石谷 昌弘
		水野 健一
		石野 聡
	フェロー	酒井 範夫

株式の状況

平成24年3月31日現在

株式事項　当期末発行済株式総数　225,263千株
当期末株主数　80,035名

所有者別分布状況（千株）



株式上場　［国内］　東京証券取引所　市場第一部
大阪証券取引所　市場第一部
［海外］　シンガポール証券取引所

大株主の状況

平成24年3月31日現在

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社（信託口）	12,564	6.0
ジェーピー モルガン チェース バンク 380055	9,905	4.7
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社（信託口）	9,348	4.4
日本生命保険相互会社	9,201	4.4
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	5,761	2.7
株式会社京都銀行	5,260	2.5
明治安田生命保険相互会社	5,240	2.5
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT – TREATY CLIENTS	4,401	2.1
株式会社滋賀銀行	3,551	1.7
株式会社みずほコーポレート銀行	3,000	1.4

（注）持株比率は、発行済株式の総数から自己株式（14,186千株）を除いて計算しております。

Innovator in Electronics、スイッチプレクサ、エミフィル、ポジスタ、イオニシモ、ムラタセイサク君、ムラタセイコちゃんは、株式会社村田製作所の登録商標または商標です。
Bluetoothは、米国Bluetooth SIG, Inc.の登録商標または商標です。